



2016年(平成28年)

4月号(No. 851)

公益社団法人

日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>e-mail ● jac-room@jac.or.jp

全国33番目となる神奈川支部誕生

日本山岳会創立の翌年、横浜在住の小島烏水と高野鷹蔵が語らって早くも「横浜支部」が設立されているが、その後、関東大震災などの影響で活動を休止している。いわばJACのルーツともいえるその地に、33番目の支部として神奈川支部が産声を上げた。

神奈川支部設立の経緯

筆者は会長在任中、YOUTH CLUBの充実強化と支部活性化を重要政策と位置付けてきた。特に支部活性化に関しては、半数以上の支部に出向くなど積極的に取り組んできた。そして、さらなる活性化のためには、大きな空白区となつてゐる東京23区と神奈川県に支部を設置することが重要との認識を持った。東京23区については、東京多摩支部にエリアを広げて対応できないか依頼済みであるが、負担が大きく進展していない

のが実情である。一方、神奈川支部に関しては、筆者が神奈川在勤であり、また、現理事会の構成員中5名が神奈川県在住であることから、彼らの協力が得られれば十分可能であると判断した。また、本部のY・C内でも初心者が集うワンダーフォーゲル部には多数の入会希望者があり、その中には神奈川県在住者も多いとの報告があり、支部設立は急務と感じた。

そこで中核メンバーとなる数人に声をかけ、2015年度末の設立を目標に工程表を作成した。7

目次

全国33番目となる神奈川支部誕生	1
ネパール大地震募金のご寄付者一覧	4
準会員制度導入は総会に提案	
永年会員の実費相当費用の徴収は見送り	5
第3回登山教室指導者養成講習会を小誌で開催	6
今年も山研でお待ちしています	9
「山の日に向けて」山を考える⑨	10
活動報告	11
支部だより	12
茨城支部	
図書紹介	13
図書受入報告	14
新入会員	15
会務報告	15
会員異動	16
ルーム日誌	17
INFORMATION	17
編集後記	19

▶日本山岳会事務局(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10～20時
水・金……………13～20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10～18時

月にこのメンバーの知人などを中心に発起人候補者32名に就任を要請し、21名の同意を得たので、この発起人で準備会を構成し、設立趣意書、支部規約などの詳細を検討した。その上で、11月に県内在住会員約400名にアンケート調査し、1229名(その後5名が加わり、設立時で134名が支部に所属する旨の意思表示があった。

これらの結果を受けて、発起人による準備会で設立後の体制を協議し、組織図、支部規約の最終確認、人事案、2015・2016年度の事業計画と予算案を作成した。そして、3月19日を設立総会開催日とし、2月2日に議案書を構成員に配付するとともに、2月の本部常務理事会と理事会で承認を得る手続きをとった。設立総会では準備会提案のすべての議案が承認され、同日をもって「神奈川支部」が設立された。

準備会では事務的作業だけでなく、支部の基本理念についても検討した。その結果、JACの原点に立ち返ってクライズムを徹底すること、若手を対象としたY・C委員会と中高年が中心となる山行委員会を事業の二本柱とすること、経費はネット利用などにより極力削減すること、などを活動のベースとすることを確認した。今後は、二本柱の委員会が隔月で山行を実施することを目標とし、支部会員間の交流を深める中で、支部の組織基盤を固め、2017年度以降の支部企画山行を検討・実施していくことを目指している。

(森 武昭)

神奈川支部設立総会報告

平成28年3月19日、神奈川大学横浜キャンパスにおいて日本山岳会神奈川支部設立総会が開催された。

総会に先立ち行なわれた記念講演会では、神奈川大学山岳部の「セブンサミッツ制覇からG&G計画への歩み」、登山家・山岳カメラマンの平出和也氏の「未知への挑戦」の講演プログラムが実施された。

最初に、2001年から行なわれた同山岳部の7大陸最高峰制覇の取り組みについて、監督の落合正治氏から講演があった。順調に進んできた遠征が、北米大陸のデナリで悪天候や学生隊員のクレバス転落事故などに遭遇したが、それを克服して登頂できたことや、



神奈川支部設立総会に先立って記念講演会が開かれた

チョモランマでは高度障害に苦しめられながらも登頂、その帰路、意識を失った隊員を真夜中に6時間かけて救助したこと、最後の南極ビンソンマシフでは、登頂の瞬間に号泣したという話などが語られた。人も力量も金もない「三ないクラブ」が、苦難を乗り越えて達成した感動の講演であった。

記念講演の第2弾は、いよいよ平出和也氏の登壇だ。氏は日本人として初めてピオレドール賞を受賞した世界的な登山家・山岳カメラマンであるが、横浜市在住の日本山岳会会員でもある。講演は氏のプロフィール、幼少期の山との出会い、陸上競技(競歩)に明け暮れた学生時代から始まり、登山への転進、ピオレドール賞を受けたインド・カメット峰をはじめとした数々の活躍の軌跡へと続いた。

その登山姿勢は「誰も知らない、いい山へ行きたい」「誰もしたことのないチャレンジをしてみたい」という探究心、「すべてを自分の力と責任において行ないたい」という独立心、スポンサーに依らない徹底したアマチュアリズムによつて貫かれている。氏は自らにとつての転機となった山として、



自身の「山」を語った平出会員

シブリン、カメット、アマ・ダブラムの3峰を挙げ、そこでの経験を語ってくれた。我々は会場にいながらにして、未知への挑戦を続けるトップクライマーの世界の一端に触れることができた。同時に未踏の地がほとんど失われたこの時代にあっても、魅力ある課題を探索し続ける気持ちがあれば、冒険はまだまだ無限に存在するという氏のメッセージも伝わってきた。

設立総会は15時45分から開催された。はじめに設立発起人でもある森前会長から、現在の支部会員の総数134名、本日の出席者58名、委任状52名で総会の成立が宣言された。その後、発起人代表の込田伸夫氏を議長に選任、議事が進行された。設立経緯と設立趣意書の説明があり、神奈川県在住のJAC会員400名弱に参加を呼びかけ、134名が加入したこと

が報告された。規約の審議では、通信手段をできる限り電子メールを使用することで経費を抑え、支部会費は原則として徴収しないで運営するという方針の説明があった。事業計画に関しては、当面は月1回の山行を実施し、支部員の理解と親睦を深め、次年度からイベント的なことにも取り組んでいきたいとの提案があった。審議事項はすべて原案どおり承認された。

最後に支部員である砂田定夫氏から草創期の日本山岳会と横浜支部について講演があった。横浜在住の小島烏水(のち初代会長)と岡野金次郎が当時、横浜に滞在中のウェストンと面談、交友に発展し、ウェストンが山岳会設立を勧め、1905年に7人の発起人により山岳会が創立されたこと。創立の翌年、発起人のひとり、やはり横浜在住の高野鷹蔵と小島が委員となったいち早く「横浜支部」を設立したこと。この後、高頭仁兵衛が「新潟県支部」を立ち上げたので、2支部が最初の支部となること。中心となった高野が大病を得て会務を離れ、関東大震災で家屋と山岳資料を焼失し、横浜支部の活動は記録上消滅したことなど、興味



「横浜とJAC」を講演した砂田会員

深いお話であった。氏は「横浜支部の灯が消えて約1世紀、神奈川支部設立の日を迎え、感慨深いものがある」と締めくくった。

総会終了後、同大学の食堂を利用して記念パーティが開催された。パーティには小林会長をはじめとする本部役員、近隣の支部長など多くの来賓の皆さんが出席し、盛り上がった。「神奈川支部の目指す方向性は、今後のJACのあり方に新風を吹き込むのではないか」という挨拶が印象的であった。

最後に、神奈川支部設立総会においては、現役学生を含め神奈川大学の関係者には大変お世話になった。心から謝意を表する次第である。

(長島泰博)

神奈川支部長就任にあたって

このたびは日本山岳会の皆様の大なるご尽力によりまして、神

奈川支部が設立されましたこと、篤く御礼申し上げます。また、3月19日の設立総会とその後の記念パーティには、小林会長をはじめ役員、並びに近隣支部長各位のご臨席を賜り、誠にありがとうございました。この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。

私は新潟県長岡市出身（昭和24年生まれ）で、長岡高校から立教大学に進み、同大学院を経て、米国のペンシルバニア大学に留学し、帰国後の昭和55年に現在の神奈川工科大学に着任しました。現在は基礎・教養教育センターで「ヨーロッパの歴史と文化」、「博物館概論」、英語科目等を担当しています。学生時代は美術クラブで下手な絵を描き、青臭い芸術論を語り合っていました。豪雪地帯に生まれ育ったこともあり、子どものころからスキーに親しみ、春も暖かい日差しを浴びて長岡近郊や上越の山々、あるいは5月の連休には立山にもよく滑りに行っていました。私が神奈川の山に親しむようになったのは、厚木で教えるようになってからです。作家の近藤信行氏や、故大森薫雄元副会長を中心として結成された、小田急沿線山

の会「丹水会」に入会してから、新潟出身者にはなじみの薄い丹沢との付き合いが始まりました。加えて丹水会設立者の一人でもあった、神奈川工科大学機械工学科の故鳥居亮先生の、穂高での風力発電実験参加がきっかけで、北アルプスを頻繁に訪れるようになり、丹沢と穂高が縁で職場が同じ森前会長と同じころ、日本山岳会に入会しました。海外遠征など難度の高い山の経験がない私は、今も自分の身の丈に合った山行を楽しんでいます。印象的だった山は昔、一人旅で行ったギリシアのオリンポス山でしょうか。ホメロスが歌った「バラ色の指をした」曙の女神の織りなすすばらしい夜明けと、遥か眼下に見えるエーゲ海はとても感動的でした。

初代日本山岳会会長・小島烏水の育った所であり、烏水に大きな



初代支部長に就任した込田会員

影響を与えたウェストンの居住地でもあったのが、当時、西洋文化流入の一大中心地だった港町・横浜です。この二人の出会いが日本山岳会設立への契機となりますが、この意味でも横浜は、まさに「日本山岳会発祥の原点」ではないでしょうか。そして、このたび日本山岳会と所縁の深い自然豊かな神奈川県に、神奈川支部が設立されたことは望外の喜びです。この支部の基本理念は「若い会員の力」です。この支部には経験豊富なベテランとともに、活気溢れる若い会員が多く、山岳会の活性化に大きく寄与するものと確信しています。最初は支部会員相互の親睦を中心にして、各人の技術や体力、興味に見合った山の魅力を楽しめる山行を実施していきたいと思っています。また近い将来、若い会員を中心とした海外遠征の実現を楽しみにしています。

神奈川支部をほかの支部と同様魅力溢れるすばらしい支部にしていきたいとの決意をここに表明して支部長の言葉といたしますが、今後とも日本山岳会各位のご指導ご教示をなにとぞよろしくお願い申し上げます。次第です。(込田伸夫)

REPORT

ネパール大地震募金のご寄付者一覧

多数の会員並びに団体会員の皆様から、680万円を超えるご寄付をいただき、ありがとうございます。ここに謹んで御礼申し上げます。

この募金は山岳6団体の共同募金であり、ご寄付の申し出に日本山岳会の会員番号、支部名または団体会員である旨の記載のあった方のお名前、団体名を掲載させていただきます(敬称略)。

41万円 大阪大学山岳会
35万円 名古屋山岳会
18・8万円 東海支部
10万円 田邊壽、菰田快、尾上昇
久保田保雄、重廣恒夫、大里祐一、古市進、柴田清康、深井嘉浩、北村和子、長谷川良典、千葉大学山岳部
6万円 遠藤興志郎
5・5万円 原田曉之
5・4万円 荒川一郎
5・1万円 熊本支部
5万円 山野井武夫、近藤育代、節田重節、吉川正幸、和田誠一、鈴木裕代、遠藤俊一、田村護、田中

康典、廣瀬健太、掛江正通、落合正治、石川健二、石川恵子、伊藤正毅、上田忠士、岩谷憲道、高野剛

4・2万円 宮城支部

3万円 赤羽孝一郎、上尾庄一郎、斎藤惇生、大森久雄、坂口三郎、秋山光男、堀井昌子、平野紀子、中山茂樹、森川茂樹、野口いづみ、新井康弘、柏澄子、田代侃、杉江慶子、豊島義明、阿部郁夫、酒井絃一、広島支部有志
2・5万円 成瀬ヒサ・昌基・航太

2万円 藤井健、井口謙司、高木孝、伏見紀子、鈴木昭、安藤文子、山本良三、越田和男、下河辺史郎、谷口定樹、佐藤邦彦、小原俊、原康博、坂西徹朗、勝山康雄、森武昭、高木康雄、西田進、古野淳、杉田さかえ、三戸部清文、福田文夫、石井文雄、安場俊郎、山梨柁巳、直江俊式、森山迪子、大竹諄長、鈴木祐二、西村一夫、小堀一政、日大二高山岳部OB会
1・7万円 小原俊
1・6万円 三渡忠臣、埼玉支部

1・2万円 中野八千代

1万円 土田幸雄、山口節子、山野井武夫、芳賀孝郎、藤本三樹雄、長尾梯夫、福田勝一、石原國利、高澤光雄、桑原勇蔵、牧田洋子、伊藤博夫、野田憲一郎、新妻徹、宮澤章、中馬重人、菊池武昭、早川禎治、塚原賢勝、新本政子、琴尾泰典、長塩憲司、今村寛、大島秀夫、奥村清明、小比類卷尚実、金子浩、大久保春美、西村政晃、木戸繁良、藤條好夫、山平靖、小林政志、加藤節子、高原三平、高木稔、真栄隆昭、望月阿香実、石井忠雅、福士節子、小野勝昭、斧田一陽、三上博民、新井陽一郎、清登緑郎、三谷統一郎、田中節子、加藤英彦、岩田修二、須々田秀美、佐藤紀子、小山睦子、山口正人、神長幹雄、南井英弘、野沢誠司、山田信明、森栄司、須藤節子、貫田宗男、宮澤美渚子、中山健、西田立、山村孝夫、石光久仁子、染谷美佐子、高橋重雄、酒匂輝昌、新井浩、倉持内武、青木義明、松本睦男、長塩曉美、大島洋子、河野直子、中川寛、佐藤昭次郎、平井喜久枝、西村智磨子、鶴田實、松上美代子、今田明子、石岡慎介、長久保浩司、山口千恵子、石原康生、

坂本彰子、長百合子、望月恭一、望月公子、松下征文、高井延幸、中村庸男、織方郁映、清水久雄、畠山迪子、今井幹雄、竹中彰、荒川一郎、大槻利行、丹羽邦夫、寛邦男、岡部紘、柴山信夫、重南昌男、佐藤守、元川里美、大塚忠彦、武田範子、山本敏子、石盛三男、鳥山文蔵、谷茂、山村浩紀、川合紹一、滝川敏康、杉浦吉治、脇田幸子、松島岳生、本多祐造、加藤ちづ子、川口章子、畠中智代、川瀬恵一、澤村貴和、森田信人、竹内正明、高橋努、西谷隆亘、大澤純二、近藤知子、鬼村邦治、千葉泰丈、中村好至恵、長岡光恵、野村志保子、銘苅盛暁、松川征夫、長島秀行、松永秀和、長岡ミツ子、鈴木成治、菅田幸恵、猪熊隆之、浅香英一、陸田靖雄、八幡敏正、泉田浩二、宮崎紘一、村田岳、大平展義、森田章夫、中村和史、吉田栄孝、吉澤清、河野照行、渡辺一重、大山静子、菅充弘、末松誠、松本浩、三谷統一郎、尾高剛夫、和田耕一、坂本純一、實川欣伸、千葉支部
1万円未満 131の会員並びに団体会員から約53・9万円のご寄付をいただきましたが、紙面に限

りがありますので、お名前は割愛させていただきます。

創立110周年記念式典の際のお祝い金・寄付金一覧

平成27年12月5日の記念式典と年次晩餐会の際に、以下の個人および団体からお祝い金を頂戴いたしました(敬称略)。

3万円 公益社団法人日本山岳協会、ナカニシヤ出版
2万円 日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、京王電鉄(株)
1・5万円 奥原幸、磯野剛太、轡田隆史、全国「山の日」協議会、上高地町内会
1万円 日本勤労者山岳連盟、日本ヒマラヤ協会、国立登山研修所、株式会社山と溪谷社、上高地旅館組合、上高地梓川右岸専用水道事業組合、公益財団法人植村記念財団
(日本山岳会内 ネパール大地震救援ワーキング・グループ)

PROPOSAL

準会員制度導入は総会に提案 永年会員の実費相当費用の徴収は見送り

再生委員会担当理事(会長) 小林政志

再生委員会委員長 森 武昭

会報1月号に、「準会員制度の導入と永年会員の実費相当費用の徴収に関する提案」を掲載したところ、4名の会員から貴重な意見をいただくとともに、関連の深い公益法人運営委員会と財務委員会

でそれぞれの立場から詳細な検討をしていただいた。これらの意見や報告を基に再生委員会として総合的に検討し、以下のような結論を得た。

準会員制度については、原案どおり進めることとし、準会員規程の新設を理事会へ提案した。また、その内容を反映した定款・定款施行細則の変更を総会に提案することにした。

永年会員の実費相当費用の徴収については、当初、定款変更で実行可能と理解していたが、終身会員(定められた会費を前納することにより以後の会費が免除となる)が在籍50年になって永年会員

になっても終身会員としての特権が生きており、実費費用徴収は法的解釈からすると問題があることが判明した。

したがって、提案を実施すると会員間の公平性が担保できず、会の運営上支障を来す恐れがあるため、今回はこの件に関しては提案を見送ることにした。この間の審議過程で、将来にわたり会を運営していく上で、会員資格に関し

て制度設計上、問題があることが明らかにになったので、今後さらに再生委員会内の制度設計ワーキング・グループで引き続き検討していくことを確認した。その際、大きな問題点がある終身会員制度については、この検討結果が出るまでの間、新規の申請を受け付けないことを総会に提案することにした。また、会の現状に鑑み、永年会員の方々には、会費納入時期に合わせて寄付を強くお願いするこ

とにした。

会の財務基盤の確立のためには、このほかにもいろいろな施策を検討している。収入増を図りながら、今まで以上の経費削減による支出の見直しを行ない、平成29年度の黒字化を目指している。収益事業についても公益法人として許容される範囲内での検討が進んでおり、その第一弾として、4月下旬から東京の高尾山で「山のお弁当」を販売することを予定している(詳細は会報5月号に掲載)。さらに会員サービス向上のために、山小屋や登山用品店利用時の割引制度についても準備が進んでいるところである。

永年会員からの実費相当費用の徴収は見送ることにしたが、この過程で問題となった事項を今後改善するとともに、前記の施策を着実に進めることにより、円滑な会の運営と財務基盤の確立という当委員会の役割を果たしていく所存である。



REPORT

第3回登山教室指導者養成講習会を
小諸で開催

支部事業委員会 武藤篤生

支部事業委員会では、各支部が登山教室を実施するのに必要な指導者を育成し、実施と運営のノウハウを支部間で共有するために座学と実習を含んだ指導者向けの講習会を過去2回開催した。第3回となる今回の講習会では、冬山で登山教室を開催する際に必要な知識と技術を学ぶことを目標とした。

1日目は机上講習である。はじめに冬山の天気について(株)ヤマテの猪熊氏に冬山の天気について講義していただいた。天候が原因となつて発生する遭難は多い。冬山における風雪の発生の原理から天気図の読み方のポイント、観天望気の技術まで、過去に遭難が発生した際の写真や天気図なども示しながら、理解しやすく説明された。ベテランの受講生からいくつかが質問が寄せられたが、いずれも分かりやすく回答いただいた。

次に冬山の安全管理について、翌日の実地講習でも指導いただく松原氏の講義を受けた。コースの

選択、装備、雪崩について、特にトラブル発生時の対応については、経験に基づいて具体的な説明をいただいた。最新の装備や技術に関する説明もあり、ベテランにとっても役立つ講義内容であった。

講義の後で、各支部で実施している登山教室を紹介していただき、さらに懇親会では活発な意見交換が行なわれた。受講者、講師の集め方、実施形態、安全管理など、これから登山教室を実施しようとしている支部だけではなく、現在、実施している支部にとっても、役立つ内容が多く、支部間の情報共有の重要性が実感できた。

2日目、朝食後の食堂でホワイトアウト時に地図とコンパスでナビゲーションする実習を行なった。受講者は松原氏の指導の下、地図に書き込みをしながら技術をマスターした。その後はバスで高峰高原に移動して、黒斑山往復の実地研修である。積雪は少なく、当初予定したスノーシューは使わず、



冬山気象を講義した猪熊講師

アイゼン歩行とした。所々で足を止め、装備の使い方、歩行法、歩行ペースなどの実習を行なった。頂上付近はガスに覆われていたが、ときどき現れるガスの切れ間から浅間山頂を望むことができた。帰路では、朝の自習で書き込みした地図を用いてナビゲーションの実習をし、下山後にツエルトの張り方の実習を行なって実地講習を修了した。講習会終了後も受講者より質問などが寄せられ、受講者にとって興味深く、有用な講習会であったようだ。

今回の実技講習では、松原尚之ガイドと橋尾歌子ガイドに指導をお願いしたが、登山教室の受講者は女性の受講者が多い傾向があり、女性ガイドの指導は有効であった。今後はより多くの支部から会員が参加できるよう、地方のブロックで講習会を開催する予定である。



冬山の安全管理を講義した松原講師

多くの支部に指導者が育ち、登山教室が開催され、支部の活性化が実現されることを望んでいる。

〈実施概要〉

支援：公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団
参加者：受講者25名(埼玉支部3名、東京多摩支部8名、千葉支部1名、山梨支部1名、東海支部1名、岐阜支部3名、広島支部8名)、講師3名、スタッフ3名(支部事業委員会)

3月5日(土) 安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センターにて

13:30 開講式

13:45 講義 冬山の天気(講師：気象予報士、(株)ヤマテン社長 猪熊隆之氏)

15:30 講義 冬山の安全管理

(講師：日本山岳ガイド協会ガイド 松原尚之氏)



黒斑山頂で記念撮影に収まる一行

17:15 登山教室運営の実際
(運営・指導経験発表とディスカッション)
3月6日(日) 高峰高原(黒斑山往復)にて
7:30 ナビゲーション実習(安藤百福センター食堂)
9:30 バスで車坂峠着、実技実習(黒斑山往復、講師・松原尚之氏、橋尾歌子氏)
15:10 車坂峠帰着、バスで下山
16:00 安藤百福センター着、解散

多くを学んだ2日間

2016年3月5・6日に行なわれました、日本山岳会の第3回

登山教室指導者養成講習会に参加してきました。各支部から総勢25名の参加者となりました。会場となった安藤百福センターは、八ヶ岳連峰と浅間山を望む小諸市に位置しており、美しい自然環境の中で有意義な時間を過ごすことができました。

5日は13時より座学が2講行なわれました。第1講は、(株)ヤマテ社長の猪熊隆之氏による冬山の天気です。全般的な冬山の気象に關して分かりやすく説明していただきました。天気図の読み方、そして、山脈の位置や地形の關係によつて、冬でも荒れやすい所と穏やかな所に分かれるということが、この講義の要点であつたと思います。天気予報のみに頼らず、天気図や気象の傾向、また、地形などを総合的に判断するべきであると学びました。

第2講は、松原尚之ガイドによる冬山の安全管理でした。特筆すべき内容は、雪崩のリスク管理と冬山でのナビゲーションです。雪崩のリスクに關しては、発生前にある程度の傾向が見られるため、悪条件がそろつたときには山に入るべきではない、ということを教

えていただきました。また、冬のルート・ファイディングに關して積雪や風によつてルートが消えてしまうため、夏と同じ感覚で山に入らないこと、地形図・コンパスの使い方を確実にすることなどを教わりました。また、ツエルトとシャベルは冬山では必携のアイテムであり、特にシャベルは、ときにツエルトより有用なこともある、と教えていただきました。

講義の後は皆さんで食事会。お酒を交えて消灯時間の11時まで楽しく談笑しました。

6日は黒斑山で冬山実技講習が行なわれました。朝、センターの窓から見る浅間山方面は、前日の天気講座で学んだ笠雲が懸かり、山頂付近の天気があまり芳しくな

いことが分かります。天気予報も午後から下り坂で、心配しながらの出発です。車坂峠までバスで移動します。歩行の途中でアイゼンを装着し、アイゼンワークを学びながら山頂を目指します。9時30分に登山口を出発、11時40分にトミーの頭を通過し、12時に黒斑山山頂へ。

この日は登山者も多く、賑やかな山頂でした。最初は雲が多く、山頂からの視界が全くありませんでしたが、昼食中から雲が切れ、晴れ始めました。どつしりとした山容の浅間山が姿を現わし、小諸方面の雲も開け、町並みも見渡すことができます。良い意味で天気予報が外れ、帰路は眺望にも恵まれての大満足な山行でした。

年会費預金口座振替のお知らせ

日本山岳会では、昨年度から年会費の預金口座振替を実施しており、すでにお申込みいただいた方々の平成28年度の年会費は、本年4月27日にご指定の預金口座から引落としさせていただきますので、お知らせいたしますとともに、預金口座残高のご確認をお願いいたします。

なお、平成29年度以降、新たに年会費預金口座振替をご希望される方は、本部事務局(FAX03-3261-4441、e-mail/jac-room@jac.or.jp)までご連絡ください。



ツェルト・ピバークの実技講習

帰路では槍ヶ鞘からホワイトアウト・ナビゲーションの練習になり、朝食時に準備した地形図を基に、ルート・ファインディングを行ないます。コンパスと地図の使い方に戸惑いもしましたが、有用な技術を学べたと思います。黒斑山には積雪があったものの、松原ガイドの話では、100年に一度レベルの雪の少なさとのこと。今年の雪の少なさを実感しました。

2日間、冬山講習会に参加し、学ぶことが多くありました。とにかく冬山(夏山も含めてですが)は、準備が第一であること。細かな情報取得や準備の積み重ねが事故を少なくし、山行の楽しさを増し

てくれるということです。技術や装備は、そこを土台に生きてきます。その上で、山行の経験を積み重ねていくことができれば、と思いました。すばらしい機会をありがとうございました。

(岐阜支部・東明裕)

講習会で得たものを 深化させたい

私自身冬山の経験は浅く、指導者養成講習会と聞いて尻込みしてしまいましたが、今までの知識と技術を見詰め直す良い機会と思い、今回の講習会に参加した。

初日は、まず猪熊講師から山の気象についての講義を受けた。遭難事故のなかでも気象遭難の話をよく聞く。天気予報で大荒れが予想されているときだけでなく、平地では良い天気だから出発したが、山では悪く、強風や雨・雪に襲われ、低体温症や道に迷う場合もあるらしい。このようなことがなぜ起こるかという点、そもそも天気予報は地上の予報であって、山の天気は違うという。猪熊講師の講義は、雲が発生する仕組みから天気図の実践的な見方まで、大変興

味深く、すぐに役立つ内容であった。天気予報に頼るだけでなく、的確に利用できるよう、気象の知識を深めることの重要性を痛切に感じた。

続いて松原ガイドから、冬山の安全管理についての講義を受けた。松原ガイド自身の経験や過去の山岳事故例を挙げながら、計画や準備、現場での判断について話いただいた。登山は自然が相手である以上、予期せぬ事態や、少しの誤りが重大な結果となる。事前の入念な計画、準備、仲間との意思疎通を図り、適切な判断を下せるよう努めたい。

その後のディスカッションでは皆遠慮していたが、自己紹介になると各人、山への思いや、仲間の輪を広げようとする熱意を持っておられ、良い刺激となった。夕食後の懇親会では、各支部の取り組みや地元の話に花を咲かせた。翌日は実技講習。黒斑山に登りながら、リーダーとしてのポイントや注意点を教えていただいた。途中、参加者の靴底が剥れるというトラブルがあったが、松原ガイドは針金とテーピング・テープを用いて、手早く補修した。下山時

はホワイトアウトを想定して、地形図から予めポイントまでの距離・標高差・方角をまとめておき、コンパスを使いながら下山した。私も冬山では迷いそうになったことがある。技術のなかには、普段はあまり出番がないものもあるが、いざ必要となったときに、落ち着いて使えるように、常日ごろから練習しておくことが必要だろう。

下山時に、浅間山がその堂々とたたずむ姿を私たちに見せてくれた。厳しくも美しい冬山。今回の講習会で得た技術や知識を深め、謙虚に山と向き合いたい。

(広島支部 安松崇)

寄付金及び助成金などの受入報告 平成28年2月まで

寄付者など	金額(千円)	寄付の目的、その他
国立青少年教育振興機構 子ども・ゆめ基金	3,589	平成26年度 助成金の精算金
佐野忠則 会員	500	法人運営費用として
小林政志 理事	100	法人運営費用として
落合正治 理事	100	法人運営費用として
吉川正幸 理事	60	法人運営費用として
早田道治 会員	20	山行委員会へ

さんけん通信

今年も山研でお待ちしています

元川里美

今年も山研開所の時期がやってきます。県道上高地公園線(釜トネル)は例年より少し早く4月15日に開通、そして山研は1週間後の週末、23・24日に開所作業が行なわれます。周辺の山小屋や旅館の小屋開けと同じように、積雪地で半年間眠っていた建物を、支障のない状態で再び機能させるというのは、そう簡単なことではありません。マイナス20度Cを下回る冬を越して、特に水周りは見えない場所に不具合が生じていることもあるので、山研委員さんたちは、これまでも殊更に気を遣ってこられたと思います。山研に集まった頼もしい小屋開け部隊が一斉に作業にとりかかる迫力に、昨年、初めての私はすっかり圧倒されましたが、ときおり通り過ぎる観光客も足を止めては、珍しそうに眺めていたのを思い出します。

こんな時期に上高地を歩けば、子猫のしっぽのようなエゾヤナギの白い花穂や、照り返す雪の上で翅を乾かす越冬組のコヒオドシなど、春の目覚めを存分に楽しむことができるのですが、昨年はいかんせん何もかもが不慣れなために、いつまでも館内で所在なく右往左往しているうちに、気付いたらほとんど外を歩くこともないまま月日が過ぎていました。上高地のような場所での外の空気に触れずにいることは、楽しめなくて残念というよりも、野生の勘が鈍るという意味で私にとってはかなり切実です。インフラがひととおり整った上高地は、町の暮らしの延長のよう錯覚しがちですが、そこはあくまで山の中とわきまえて、外部の変化はできるだけ敏感に感じ取れるよう五感を鍛えておきたいので、今年は上手にやりくりして、わずかでも外へ出る時間をつくらうと思っています。

山研の持つ雰囲気として表われてしまう可能性があるのですが、自分なりに納得のいくように山研を捉えておこうと、思いを巡らせてきました。そして至ったひとつの結論が、山小屋とか研究所というような細分化された概念にあまり捉われない、「会員相互の連絡懇親を図る」ための、「もうひとつのルーム」という有り様です。クラブライフを楽しむ全国の会員同士がいつでも気軽に集い語らえる場所、山を巡る文化交流の場、と大きく捉えておく方が、私にはストンと腑に落ちるのですが、これは少々理想論に過ぎるでしょうか？

昨年、ある方が夕食の席でこんな話をしてくださいました。小さな羊羹を人数分、ザツクの中の隙間を見つけてはそこにしのばせておく。そして、山行中も潰さないようにずっと気をつけて、最後の日にきれいな形のまま取り出して配る。そのときの皆の表情が、なんとも言えないんですよ。

静寂の夜に、グラスを傾けながら、こんなすてきな話を聞けるのも、山研の魅力のひとつです。会員の皆さんをつなぐ快適な場であるよう日々努めつつ、今年も6ヶ月間、山研でお待ちしています。

〈お知らせ〉
 本年は4月26日(火)より宿泊できます。予約の連絡は4月26日までは本部事務局へ、それ以降は直接山研へ申し込んでください。
 山研TEL 0263-9512533・2635



まだ周囲に残雪が残るなか、開所作業が進む

「山の日に向けて」山を考える⑨ 山を考えるための10冊の本(上)

近藤雅幸・永田弘太郎

これまで「山の日に向けて」山を考える」と題して連載してきたが、もつと詳しく知りたいという声もあるので、山を考えるにふさわしい書物を紹介することにした。該当する書物は数多くあるが、無謀を承知で10冊を選ぶに留めた。

専門的なものより一般向けに書かれ、入手しやすいものを選んだが、浅学なため肝心なものが抜け落ちているかもしれない。ご指摘いただけたら幸甚である。

●日本の山のすばらしさを語る珠玉の一冊

大森久雄『山の本 歳時記』ナカニシヤ出版、2008年

日本の四季は美しい。特に山を歩くとそれを強く感じる。そんな季節折々の山の彩り。様々な山の本の中からそれにふさわしい一節をピックアップして、日本の山のすばらしさを語る本である。この本では12の月それぞれに1章を割き、そこに季節ごとの山の情景や情感を割り振っている。たとえば、6月は「山の雨・雨の山」、8月は

「山で見る星」、11月は「静かなる山」。実際に山に出かけなくてもいい。この本を読むだけでもつと山の本を読みたくなり、ますます日本の山が好きになってしまふ。

●悠久の時のなかで森を見つめる米倉久邦『日本の森列伝』

山と溪谷社、ヤマケイ新書、2015年

日本の山。まず思い浮かぶのが緑なす深い森に覆われた姿である。日本の山が美しい所以である。それらの木々が何万年もかけて造り上げた森は、様々なドラマを経て私たちの目の前に立ち現われている。その悠久の時間と生命力の強さは、ただただ私たちを圧倒するのみである。この本はそんな森のうちのいくつかを取り上げて、現在、そして気が遠くなるような過去の時間の積み重ねを語る。そして森の一つ一つは、その生きざまを通じて読者に深い感動を与える。●日本の山の美しさを解き明かす小泉武栄『日本の山と高山植物』平凡社、平凡社新書、2009年

著者はこれまでに多くの著作を通じて、日本の山の美しさと特性性を語ってきた。目からウロコが落ちた読者も多いのではないだろうか。日本列島の複雑な地形や地質、季節風による世界有数の多雨や豪雪、そして強風。日本の山がすばらしい景観を有する理由を、鮮やかに解き明かす。本書では、高山植物の生態や分布から分かる日本の山の特徴を加えていて、より具体的で分かりやすい。

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

●登山者の視点で書かれた山の地形と地質

藤岡換太郎『山はどうしてできるのか』

講談社、ブルーバックス、2012年

書名どおりの内容。地球のプレートによるダイナミックな運動によってできる「山」の成因を、分かりやすく解説している。大陸同士の衝突によってできる山、断層運動によってできる山、火山灰や動植物の堆積物によってできる山、マグマによってできる山。日本列島は、この4つのプレートによって複雑に形成された島弧であり、活動を続ける地球の一部であることが納得させられる。

日本山岳会本部の看板が新しくなりました。杉の一枚板に名称を彫り込んだ新しい看板は、写真の「高尾の森づくりの会」の方々の手作りによるものです。



図書委員会

江本嘉伸さんが語る
「探検部の系譜」

山岳史懇談会

今年マナスル初登頂60周年。マナスルをテーマにした様々な企画が予定されているが、初めて大学に「探検部」が誕生したのも、奇しくも60年前である。



探検部の系譜について語る江本嘉伸氏

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です。

現在、探検家として活躍している角幡唯介さんに、本と探検について話してもらったのは2年前だが、彼も早稲田大学探検部のOBだ。彼自身は自分の探検行動を既存の価値観で意味づけしない人だが、「探検」という行為に対する深い思索を持ち、60年前に本多勝一氏が問いかけた「探検とは何か」という命題を、その思考のベースにしていることが感じられて新鮮だった。

フィールドを「山」から大きく移して様変わりしたかのように見える現在の大学探検部ではあるが、京都の地で大学山岳部員であった本多勝一氏らが、初めて「探検部」を創った60年前から、その精神はどうつながっているのか？ 山岳史の中で捉えることはできないか？ というのが今回の企画であった。

開催当日の2月22日、集客は思

ったほど多くはなかったが、各大学の探検部のOBも顔を並べ、いつものイベントとどこか空気が違うのが興味深い。

語り手は江本嘉伸氏。東京外語大の山岳部出身で、ヒマラヤ・ネパール・モンゴル・チベットでの新聞記者としての取材活動から多くの著書を持つ。とくに現在は「地平線会議」の活動で、若手の探検家のバックアップに尽力し、その活動を通じた、多くの探検部・山岳部のOBとの幅広いネットワークに定評があり、全体を俯瞰してもらうのに適任だ。江本氏が東農大探検部OBの向後元彦氏（JAC会員でもある）と法政大探検部OBの岡村隆氏にインタビュー形式で話を聞く場面では、興味深い話がいくつも飛び出した。

たとえば、エベレストに登られてしまったことや、マナスル遠征が京大からJACに移譲されたことも、京大に探検部ができたことと関係があるとも語られ、今西錦司や梅棹忠夫などの名前も挙がった。登山をめぐる当時の時代背景が、思った以上に大きな影響を与えていたのだ。

また、京大に探検部ができると、

次々に各大学にも探検部が立ち上がるが、山岳部員が、内部から分かれて創る場合も多かったという。「山岳部」についてはヒマラヤへ行かないから探検部を創る」という声もあったという。その時代を知らない私たちには謎の言葉だ。「どういうこと？」どれもこれも、もう少し詳しく聞きたい内容ばかりだった。

探検部の流れをまとめてもらうという大きなテーマを設けながら、時間が短か過ぎたようだ。大学山岳部がベースである日本山岳会に「探検部」について語る立場の困惑も、主催者としては配慮すべきであったと申し訳ない気持ちである。ただ、場所を移した二次会では、お酒が入っていつべんに「探検部」と「山岳部」の距離感が縮まった。元々同じ気質の同士だったことを改めて実感し、楽しく気持ちのよい会となった。

なお、時間切れで会場の参加者には不完全燃焼に感じられたかもしれない。江本嘉伸・岡村隆の両氏に、改めて「探検部の系譜」について原稿を依頼し、今年度の「山岳」に掲載予定である。楽しみにして欲しい。

(三好まき子)

支部



だより

全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとリポート
します。

茨城支部
北関東4支部合同懇談会
開催さる

第9回4支部(群馬、栃木、千葉、茨城)合同懇談会を、平成28年2月6日(土)～7日(日)に茨城支部担当で実施した。

1日目は太平洋に面した大洗町の「大洗ホテル」を会場に52名の参加者を得て、14時30分に開会。4

支部の事務局長による各支部年間活動報告の後、茨城支部の山田明会員が「剣岳の三角点」と題する講演を行なった。『剣岳点の記』で知られる柴崎測量官による測量では

標石を運べず設置が断念されて約100年経った。平成16年、山田

氏が富山市の国土地理院北陸地方測量部長のとき、三角点標石の設置を決め「若者に測量の歴史に加わって欲しい」と室堂から雷鳥沢キャンプ場まで高校生らが63kgの

標石を背負ってリレー登山、そこ

から山頂まではヘリコプターで運ばれ設置された経緯を映像で説明

その後、ホテルロビーで「アンコウの吊るし切り」実演を見学、18時30分から冬の名物「アンコウ鍋」に舌鼓を打ちながら宴会。

2日目は晴天に恵まれ、「高鈴山登山グループ」と「大洗磯前神社」幕末と明治の博物館散策グループ」に分かれて行動。

登山グループ40名は、バスとマ

イカー1台でホテルを8時に出発し、登山口の向陽台駐車場に向かう。9時15分に到着、点呼・準備体操の後、20分車道を歩くといよ

いよ樹林帯の登山道となり、積雪のため早朝で滑る箇所も慎重に足を運ぶ。40分で途中の御岩山(48

5m)に到着。さらに順調に進んで11時に一等三角点の高鈴山(623m)頂上に到着。講演者・山田氏から三角点についての詳しい解説

を聞き、昼食となる。

高鈴山は「花の百名山」でもあるので花の季節の再訪もお勧め。山頂で記念の集合写真を撮影、各支部もそれぞれシャッターを押す。

11時35分下山開始。雪道のため歩きが不安定な方1名を数名がフォローしながら慎重に下り、ほかのメンバーより30分遅れて13時20分登山口に無事到着し、バスで14

時50分、ホテルに戻って解散した。

散策グループ10名は、ホテル前を9時に出発。車道向かい側の境内の緩やかな坂を上っていくと、

856年創建の大洗磯前神社。神門をくぐり拝殿に参拝して東の方の階段を下り、太平洋の荒波に洗

われる岩に建つ神磯の鳥居へ。ここは太平洋からの御来迎を海の鳥居から拝める、神社の主祭神が降臨したと伝えられるパワースポット。さらに大洗公園の中を登って



雪の高鈴山にて



図書紹介

日本山岳画協会編

山に魅せられた画家達



2016年1月
日本山岳画協会
22×21cm 119頁
頒布価格2000円

日本山岳画協会は1936(昭和11)年に創立された。足立源一郎、中村清太郎、茨木猪之吉、石井鶴三、石川滋彦、小菅徳二、丸山晚霞、染木熙、武井真澄、吉田博、末光績、内野猛の12人、錚々たるメンバーが揃い、山岳会から小島烏水、藤木九三を顧問に迎えて発足した。以来、今年が80年になる。

本書は日本山岳画協会から創立80周年を記念して出された画文集で、現在籍会員の作品66点(22人の会員が各自3点ずつ)と須藤卓男会員の遺作2点を合わせて68点の

作品を収録。さらに各会員の随想文(各1ページ)を載せて画文集となった。中で紹介しておきたいのは江村眞一会員(8460)の「日本山岳画協会史提要」で、80年に相応しい記事。やや紙幅なきが惜しまれるのは「協会史」に書き残したかった(実際は果たせなかった)題目として次の9項目を掲出しているからである。これらは誰もが読みたいものではなかるうか。

- 創立会員と顧問小島烏水 ○梓村から東京・そして欠の湯へ 白寿記念展まで 河越虎之進 ○穂高に眠る 茨木猪之吉
- 「日本の山旅」 足立源一郎 ○希有のクライマー、異才の画家 上田哲農 ○白樺の庭 三輪孝
- 上高地と乗鞍 加藤水城 ○「白馬」を愛した足立真一郎 ○浅間山と二人の画家 荻原孝一、大工原武司等々で、「いずれ機会をみて発表できれば……」として

いる。しかし、古き良きことも簡単に忘却される時代である。早急に続き9編を書いてもらいたいと思う。

日本山岳画協会は、創立時の経緯、規約、山岳画の概念、公募によらない展覧会の開催と継続など、JACの会報55(昭和11年3月)に中村清太郎が記したとおりを、ほぼ継承して今日に至っている。90年、100年に向かってさらなる発展を願って本書の紹介としたい。
*問合せ先 杉山修 03-3873-2290 (杉田博)

横山勝丘著

アルパインクライミング考



2015年12月
山と溪谷社
四六判 424頁
定価 1600円+税

2011年、フランス・シャモニにて、優れたアルパインクライミングに贈られるピオレドール賞を、日本人クライマーのチームが受賞した。チーム名ギリギリボーイズ。著者・横山勝丘氏は、そのチームの一人である。

アルパインクライミングとはな

んぞや？ 知っているようでその本物世界をどれだけ熟知しているだろうか。本書は2012年から2年間、すでに山の月刊誌に連載されてきたものに加筆、さらにこれまで発表してきた登攀記録を一挙公開。気迫感じるきびきびとした展開で、熱いだけじゃないクールな判断と決断力、何もかもが要求される自然相手のクライマーの世界に、構えない著者の明るさが読者を引き込んでいく。

第1部「アルパインクライミングの世界へ」では、著者が最も刺激と大きな影響を受けたパタゴニアでのクライミングが、試行錯誤の中にも充実感で溢れている。そしてまた、著者自身を成長させてくれたという日本国内の山と岩でもクライマーの飽くなき葛藤が繰り広げられていて読み応えがある。

第2部「クライミングの大地へ」は、著者の遠征登攀の記録である。失敗に終わっても、成功の満足にも止まらず、岩壁から戻った数日後には、再び機上の人となって青く寒い氷河に飛び、無表情のモノクロの壁に向き合っているという超人的なエネルギーを爆発させている。追い求めているのか、惹き

付けられているのか、その両方に身を任せている著者とクライマーたちの命ギリギリのクライミングは、苛酷な登攀の渦中を、自分の目でじっと追っているかのような息苦しささえ覚える。

「登ること、登り続けることが大切であり、手痛い洗礼を受けることがあっても、そこで一生を終えたとしても、登るという行為がクライマーに与えるものは計り知れない」など、結果を出してきた著者のクライマー魂が、随所に熱く語られている。

クライミングが、東京オリンピックの種目として拳がったため、昨今、若者のたちの間でボルダリングが人気沸騰中だが、著者曰く、「本書は、ガイドブックでもハウツー本でもない」。しかし、楽しくも甘くないアルパインクライミングの世界を知る最高の一冊となり、教本となるに違いない。

合間に多くの山岳用語を解説し、名前が出てくるすべてのクライマーを紹介している。山や岩のエリアに至るまで大変細やかに説明されていて、実に親切だ。お陰で筆者も大いに知識をいただけた。昨年2人の息子を持つ父親にな

った著者。クライミングを通して自然の恩恵を感じて育って欲しいと成長を期待しつつ、家族クライミングを夢見ている父親に、読者の一人として、ホッと心が和んだ。

(書間弘子)

第18回「秩父宮記念山岳賞」の推薦募集について

秩父宮記念山岳賞審査委員会

第18回「秩父宮記念山岳賞」の推薦(他薦に限る)を次のとおり受け付けますので、事務局まで資料をご請求ください。

当会のHPを活用される方は、推薦募集の詳細を掲載しておりますので、推薦要項・所定様式(ダウンロード可能)などをご参照ください。

多数の推薦をお待ちしております。

本賞は公益目的事業でありますから、受賞対象者を本会会員またはグループに限定していません。

◎対象分野 ・登山活動 ・山岳に関する文化的活動、学術的業績

◎提出先 日本山岳会内 秩父宮記念山岳賞事務局

◎締め切り 平成28年8月31日

図書受入報告(2016年3月)

著 者	書 名	頁/サイズ	発 行 者	発行年	寄贈/購入別
田口洋美	越後三面山人記(新編):マタギの自然観に習う(ヤマケイ文庫)	382p/15cm	山と溪谷社	2016	出版社寄贈
米倉久邦(編)	「登山を楽しくする科学(Ⅶ)」フォーラム(2016年3月 於:立正大学)	21p/30cm	日本山岳会科学委員会	2016	当会発行
権藤司(編)	山から始まる自然保護:山の自然学クラブ会報(第15号) No.15	154p/30cm	山の自然学クラブ	2016	発行者寄贈
野口 健	ヒマラヤに捧ぐ	128p/19cm	集英社インターナショナル	2016	著者寄贈
石川直樹	K2	29cm	SLANT	2015	著者寄贈
Ishikawa, Naoki	The Himalayas - Naoki Ishikawa : Never Stop Exploring	224p/26cm	OK Fred	2015	著者寄贈

新入会員(2016年3月)

氏名 (年齢)	会員番号	居住地	紹介者		支部名
三浦 千明 (24)	15937	愛知県瀬戸市	高橋 玲司	小川 務	東海
小林 敏博 (63)	15938	東京都新宿区	山田 和人	渡邊 嘉也	
宮津洸太郎 (25)	15939	神奈川県川崎市	古野 淳	山本 宗彦	
真下 孝典 (22)	15940	東京都台東区	古野 淳	萩原 浩司	
橋井 駿 (21)	15941	東京都豊島区	古野 淳	沼田 圭左	
北島 英明 (57)	15942	神奈川県横浜市	神崎 忠男	今田 明子	東京多摩
根本 則夫 (66)	15943	茨城県龍ヶ崎市	西川 元禧	浅野 勝己	茨城
根本 路子 (68)	15944	茨城県龍ヶ崎市	西川 元禧	浅野 勝己	茨城
稲垣 邦康 (26)	15945	神奈川県横浜市	永田 弘太郎	山田 和人	
木全 紀之 (75)	15946	愛知県名古屋市	佐野 忠則	小川 務	東海
梶谷 文裕 (66)	15947	大阪府大阪市	高石 清和	重廣 恒夫	関西
三輪 力 (63)	15948	長野県安曇野市	米倉 逸生	塚原 賢勝	信濃
佐合井 寿 (51)	15949	京都府京都市	中川 寛	田中 昌二郎	京都・滋賀
村井 智恵 (57)	15950	愛知県名古屋市	石田 文男	小川 務	東海
百瀬 孝仁 (59)	15951	長野県安曇野市	奥原 宰	塚原 賢勝	信濃
有田 親央 (57)	15952	東京都日野市	宮崎 幸博	森 武昭	
鈴木 愛子 (42)	15953	愛知県名古屋市	山田 明美	小川 務	東海

平成27年度第11回(3月度)理事会
議事録

日時 平成28年3月9日(水)19時00分～20時25分

場所 集会室

【出席者】小林会長、大久保・山田各副会長、神長常務理事、勝山・野口・大槻・落合・星・谷内各理事、平井・重廣各監事(山田副会長は所用のため報告事項2まで欠席)

【欠席者】吉川副会長、佐藤常務理事、中山・山賀・直江各理事

【審議事項】

1・平成28年度事業計画書・予算書(案)承認の件について

前回(2月度)理事会において協議し、一部追加修正等を行なった別添平成28年度事業計画書・予算書(案)を配布し、詳細に検討・審議した。(賛成9、反対なしで承認)

2・国際委員会の設置について

会

務

報

告

国際委員会の新設およびJAN編集委員会と海外委員会を解散することについて別添資料により審議した。(賛成9、反対なしで承認)

3・入会希望者の承認

16名の入会について別添資料により審議した。(賛成9名、反対なしで承認)

【協議事項】

1・永年会員と終身会員制度の改訂の論点について(小林)

永年会員と終身会員制度の改訂に関して関連委員会において検討された論点について協議した。

2・会員制度の見直しにかかる定款・定款施行細則等の改正について(小林)

会員制度の見直しにかかる定款・定款施行細則等の改正案について協議した。

3・会員制度の見直しに伴う関連規程の制定について(小林)

会員制度の見直しに伴い新たに制定される関連規定案について協議した。

4・晩餐会の案内方法の変更について(谷内)

経費節減のため年次晩餐会の案内方法を変更することについて協議した。

【報告事項】

1・「縦走クラブ」と「登攀・雪山クラブ」の同好会設立承認の報告があった。(谷内・星)

2・京都・滋賀支部と科学委員会へのJACマーク使用許可承認の報告があった。(谷内)

3・マナスル初登頂60周年におけるネパールおよび国内で実施される記念事業について報告があった。(小林・大久保)

4・日本山岳ガイド協会からの登山届・下山届システム「コンパス」の普及促進の依頼について報告があった。(谷内)

5・新永年会員候補者38名について報告があった。(谷内)

6・寄付金および助成金の受入状況について報告があった。(谷内)

7・「山」3月号の発行について報告があった。(神長)

【連絡事項】

1・第32回東北・北海道地区集会
7月30日(土)～31日(日) 森吉山荘(北秋田市)

【今後の予定】

1・神奈川支部設立総会・記念講演会・懇親会 3月19日(土) 神奈川大学横浜キャンパス

2・第32回全国支部懇談会 4月9日(土)～10日(日) 新潟市

3・平成28年度広島支部総会 4月9日(土) 広島市

4・第4回小島島水祭 4月16日(土)10時～ 高松市

5・京都・滋賀支部創立30周年記念式典 4月23日(土)～24日(日) 大津市

6・マナスル初登頂60周年記念式典 4月29日(金)～30日(土) ラディソンH(カトマンズ)

7・次期理事会等
・4月度常務理事会 4月5日(火)18時30分～ 集会室
・4月度理事会 4月13日(水)19時～ 集会室

会員異動(3月分)

物故

山田義郎 (5294)16・3・1

退会

加瀬憲二 (7609)16・2・22
青柳かおる (9288)15・2・3
平野武利 (10038)16・3・14
河村靖晴 (13276)16・1・17
宇野彰男 (14800)16・3・15

村石幸彦 (4978) 関西
山本卓雄 (6639) 関西
堂馬英二 (6959) 関西
猿山昌夫 (7050) 東海
富森 毅 (7189) 東海
眞仁田美智子 (7668) 岩手
森岡由利子 (9361) 岩手
山根 繭 (9671) 東海
富永明孝 (9679) 東海
岡野 修 (9992) 千葉
杉本 誠 (10027) 千葉
中島正彦 (10111) 東海
安藤直彦 (10163) 東海
堀 了平 (10524) 京都・滋賀
山田博利 (10541) 関西
鈴木邦彦 (10840) 青森
内海 孚 (11311) 千葉
桑原建児 (11336) 千葉
増田欣子 (11406) 千葉
小島千恵子 (11525) 千葉
小林勝之 (11746) 山梨
野村百合子 (11799) 岐阜
佐伯芳造 (11959) 石川

片岡次雄 (12093) 北海道
日下部賢治 (12142) 北海道
高崎辰箕 (12244) 埼玉
安川俊子 (12604) 千葉
森 昌好 (12842) 東海
竹原隆義 (12931) 福岡
河邊和裕 (13089) 福岡
伊藤英弘 (13322) 青森
田代正廣 (13398) 青森
山本利幸 (13610) 福井
澤田信人 (13681) 福井
佐藤妙子 (13800) 北九州
奥村昌央 (13970) 北九州
高城季美子 (14046) 熊本
緒方 隆 (14119) 熊本

川北 英 (14232) 関西	河合幹彦 (14237)	久永博之 (14248)	武田一生 (14271) 北海道	池田のり子 (14311) 熊本	中村利夫 (14503)	豊島 健 (14562)	豊島美帆 (14563)	栗栖孝章 (14577) 広島	丹澤良次 (14680)	稲富 榮 (14699) 北九州	岡田秀二 (14751) 北海道	赤井 守 (14755) 京都・滋賀	渋谷泰樹 (14758)	大和正典 (14806) 福岡	成田 寛 (14893) 北海道	和田裕子 (15140) 岐阜	中森修一 (15308)	櫻井奈緒子 (15570) 富山	手塚照子 (15582)	中杉 健 (15592) 東京多摩	倉本とき子 (15650) 北九州	工藤治樹 (15654) 北海道
-----------------	--------------	--------------	------------------	------------------	--------------	--------------	--------------	-----------------	--------------	------------------	------------------	--------------------	--------------	-----------------	------------------	-----------------	--------------	------------------	--------------	-------------------	-------------------	------------------

ルーム目録 3月

1日 常務理事会 スケッチクラブ 二火会	2日 図書委員会 山行委員会	3日 再生委員会 YOUTH
----------------------	----------------	----------------

4日 CLUB 公益法人運営委員会	7日 総務委員会 高尾の森づくりの会	8日 山岳研究所運営委員会	9日 理事会 資料映像委員会	10日 山想倶楽部	10日 フォトビデオクラブ 山岳地理クラブ 九五会	11日 資料映像委員会	14日 資料映像委員会 スキークラブ	15日 支部事業委員会	16日 マナスル登頂60周年記念事業 WG 青年部 三水会 つくも会	17日 科学委員会 休山会 みちのり山の会	18日 YOUTH CLUB 山の自然学研究会	22日 デジタルメディア委員会 スキークラブ バックカント リークラブ	23日 自然保護委員会 麗山会 00会	24日 学生会 公益法人運営委員会 山遊会	25日 フォトビデオクラブ	28日 総務委員会 YOUTH CLUB
-------------------	--------------------	---------------	----------------	-----------	---------------------------	-------------	--------------------	-------------	------------------------------------	-----------------------	-------------------------	-------------------------------------	---------------------	-----------------------	---------------	----------------------

29日 マナスル登頂60周年記念事業 WG 「山の日」事業委員会 遭難対策委員会	30日 二火会	31日 再生委員会
--	---------	-----------

INFORMATION

インフォメーション

◆2016自然保護全国集会
自然保護委員会
四国支部と共催、高知で開催。
テーマ「どうする！山の野生動物との関わり」
期日 7月16日(土)～17日(日)
場所 高知県立牧野植物園(高知市)
宿泊 工石山青少年の家(高知市・前夜泊不可)
日程 第1日集合 午後1時～
*支部報告*基調講演「三嶺のシカの食害」(仮題)石川慎吾・高知大学理学部教授*グループディスカッション「山の野生動物との関わりを考える」(仮題)*懇親会
第2日フイールドスタディ・工石山登山(3コース)
費用 宿泊代1万2000円
申込み 5月31日までに、氏名住址
所、電話を明記しハガキ、FAX、メールで川口章子宛
〒274-0063 船橋市習志野台4-43-1102
FAX 047-463-8721
✉ syunaki@pony.ocn.ne.jp (問合せも)
*申込み受付後詳細送付します。
◆樹木観察基礎講座―牧野記念庭園の樹木― 自然保護委員会
1月に続き、東京の身近な樹木を題材に観察会を行います。会員ならどなたでも参加できます。
日時 6月5日(日)13:00～15:30
場所 練馬区立牧野記念庭園
集合 牧野記念庭園入口(大泉学園駅から南へ400m)
持ち物 筆記用具、お持ちの方は図鑑

費用 5000円

講師 平野裕也(本会会員 森林

インストラクター)

定員 20名

申込み 川口章子

✉ syuaki@pony.ocn.ne.jp

FAX 047-463-8721

◆『木の目草の芽』121号を発行

自然保護委員会

自然保護委員会機関紙『木の目草の芽』121号(最新号)を発行。

今号は四国支部の尾野益大支部長

「登山人生と自然保護」、埼玉のシ

カ被害状況、委員会主催・明治神

宮樹木観察会報告等を掲載。

購読申込みは、川口章子 047

-463-8721

✉ syuaki@pony.ocn.ne.jp まづ。

またウェブサイトでも。

JACホームページ↓日本山岳会

の活動案内↓自然保護委員会↓委

員会ウェブサイト↓機関紙

http://www.jac.or.jp/info/inkai/

shizenhogo/newsletter.html

◆「山の日」制定記念・新入会員の

ための「徳本峠越とウエストン祭」

山研運営委員会

W・ウエストンの足跡をたどり、

徳本峠から上高地に入り山研1泊

翌日「碑前祭」に参加。新会員の仲

間づくりを手助けする企画です。

日程 6月4日(土)・5日(日)

費用 1万2000円(1泊2食、

午餐会、記念品、傷害保険料込)

定員 20名(27年度入会の会員お

よび本会会員の希望者)

*現地集合・解散

申込み 5月10日(火)までに安井康

夫へ 携帯090-7270-7

753 ✉ jac-sanken@jac.or.jp

*申込み者に詳細案内を送ります

◆2016探索山行

大正池誕生101年の上高地の自

然を訪ねて

科学委員会

1915年の焼岳噴火で誕生し

た大正池。世界一若い花崗岩・森・

花を観察して回ります。焼岳の噴

火活動で梓川の流路が岐阜県側か

ら松本方面に変化し、現上高地の

地形が誕生したことを理解します。

日程(予定) 6月11日(土)新宿駅西口

(7:30)発→上高地→西糸屋(泊)

ウエストン碑、田代橋、大正池、

焼岳噴出物の見学。夜セミナー。

6月12日(日)上高地(昼過ぎ)発→新

宿駅西口(19:00ごろ)着 JAC

山研、明神池、徳沢、小梨平の見学。

費用(予定) 2万円(バス代、宿泊費

等)

募集人数 45名(先着順)

申込み 氏名(会員は会員番号)、

年齢、性別、連絡先(〒住所)

電話(できるだけ携帯)、メー

ルアドレスを記載、左記に。

✉ kagaku@jac.or.jp またはハ

ガキで〒102-0075千

代田区三番町7-6-303

米倉久邦宛

問合せ 米倉久邦 携帯090-

5790-5052 *申込み受

付者には6月上旬ごろ詳細を連絡。

◆信州・御座山と十文字峠

山行委員会

シヤクナゲの咲き乱れる十文字

峠と日本二百名山の御座山を南相

木村から不動の滝を経て登ります。

チャーターバスを利用、両日とも

軽い荷物で歩きます。

日程 6月12日(日)〜13日(月)

集合・解散 12日7時10分 JR

新宿駅西口 13日20時ごろ

JR新宿駅西口

行程 12日⇔十文字峠 13日⇔御

座山(2112m)

費用 2万円(交通費、宿泊費、懇

親会費、傷害保険料、雑費)

申込み 5月18日までに植木淑美

へ FAX 042-734-14

98または✉ sanko@jac.or.jp

*傷害保険加入のため、生年月日

をお知らせください。

◆白神山地ブナ林再生事業と自然

観察会 青森支部

世界遺産・白神山地のバッファ

ーゾーン周辺の生育不良杉林地

をブナ林に再生するための除伐、

植樹などの作業、および原生ブナ

林の観察会を行なう。寝袋、食料

必携。テントはこちらで用意可。

日程 6月25日(土)〜26日(日)

会報「山」の目録について

会報「山」は付録として50号(ほぼ4年に1回)ごとに目録を付けています。内容は、巻頭、論説、研究・随想、会務報告、委員会報告など、項目ごとに記事内容と筆者、号数を表示したもので、過去の記事や記録を調べる際に便利です。

先月の3月号で850号となり、現在、801号から850号までの目録を作成中です。まず分類分けと号数が入った記事データを作成し、数回にわたる校正を経て、校了となります。完成までに約2ヶ月から3ヶ月を要し、5月中には801号から850号までの目録が完成する予定です。

ただし昨今の山岳会の財務状況から、今回の目録は印刷経費と発送料を削減するための、記事データのみを作成、印刷は会員各自で行なってもらうことにいたしました。どうぞ事情をご推察いただき、ご協力をお願いいたします。

なお、従来どおり紙での印刷を希望する会員には、事前にHP、会報等で広報しますので、事務局にハガキかFAX(03-3261-4441)、E(jimukyoku@jac.or.jp)などいずれかの方法で、6月末までに申し込んでください。あらたに見積りを取り、印刷・発送の実費は徴収させていただきます。

また、お手元にある会報の製本を希望される会員には、これまでどおり合本をお引き受けします。詳細は追って会報などに掲載しますので、よろしくお願いいたします。会報編集委員会

山行企画 山の自然学研究会

山の自然学研究会

◆秘境の山旅「コーカサス・ベゼンギ山域を歩く」

集合 25日8時JR弘前駅城東口
おおよび10時30分奥赤石林道ゲート
解散 26日15時奥赤石林道ゲート、18時弘前駅送迎可
経費 なし(食料、保険は各自で)
定員 30名
申込み ハガキ、FAX 0172-447237、メールで須々田秀美宛 〒036-0103 平川市本町北柳田96-2 E(h.susuta@gmail.com) 6月18日まで

◆山本茂富登山バジジ展
会期 4月28日(木)～30日(土) 9:30～16:30(最終日は15:00)

旅行企画・実施 (株)タビーズ観光
庁長官登録旅行業第1906号
期間 7月8日～19日(12日間)
費用 39万9000円(別途燃油サーチャージ・空港税等4万3000円(15名基準))
定員 20名最少催行人員15名
大コーカサス山脈を訪れます。詳しい内容のチラシを用意。
問合せ先 ユーラズアーズ
TEL 03-55562-3381
FAX 03-55562-3380
E(tokyo@euras.co.jp)

訂正とお詫び

2016年3月号(850)で、左記の誤りがありました。

●8ページ目 担当大久保は「9b00247@nifty.com」 ●10ページ目 度目の挑戦は明治27年 ●14ページ 「スキールピニズム研究会編」は同会「著」 ●15ページ 『てつぺん駆けた記』の発行は「2015年10月」、同本文中「Low Shoes」は「Low Shoes」、「スキー・フルージング」は「スキー・クルージング」、「はじめよう! 山あるきレッスンブック」の総ページ数は「176ページ」 ●16ページ 『山水の飄客 前田普羅』の寄贈者は「著者」、「につぼんの山上集落を訪ねて」の発行者は「白山書房」の誤りでした。

会員並びに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことをお詫びして、訂正いたします。

会場 プラフ18番館(山手イタリア山庭園内) 横浜市中区山手町16(JR石川町駅南口徒歩5分)

連絡先 会場 TEL 045-662-6318 山本茂富 携帯 080-33381-0128

E(nrc59332@nifty.com)

◆編集後記◆

●前号本欄でお知らせのとおり、柏澄子さんが編集長を退任されました。4年間も、本当にご苦勞様でした。その後任として、いささか臺が立っていますが、元出版社編集者の私が指名されました。引き受けて早々ですが、あくまでもワンプoint・リリーフでして、できるだけ早く若い編集長にバトンタッチしたいと考えております。

●4月9～10日、全国支部懇談会に行ってきました。250余名もの会員が集まり大盛会でしたが、9日夜に不慮の事故があり、10日の弥彦山登山は中止となりました。参加者はもちろんですが、膨大な準備作業を経て臨まれた、遠藤支部長はじめ越後支部の皆さんの落胆ぶりには心が痛みました。本当にご苦勞様でした。(節田重節)

日本山岳会会報 山 851号

2016年(平成28年)4月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 小林政志
編集人 節田重節
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社